

よこはまし ちいきにほんごきょうしつじれいはっぴようかい
横浜市・地域日本語教室事例発表会 ～ふりかえる・伝える・学び合う～

じっしほうこく
実施報告

■日 時: 2016年1月31日(日) 13:00～16:30

■場 所: フォーラム南太田

■参加者: 81人

■目 的: 特徴のある日本語教室のようすを紹介し、お互い^{たが}に知りあ^しい、情報交換^{じょうほうこうかん}できる機会^{きかい}にする。

■内 容:

【第1部】 ちいきにほんごきょうく かか だんたい はっぴよう
地域日本語教育に関わる団体による**ポスター発表** (市内3・市外1)

- ・ あい♡にほんごクラブ
- ・ 港南国際交流ラウンジ 日本でくらす会
- ・ なか国際交流ラウンジ 日本語教室
- ・ つるま読み書きの部屋(大和市・招待団体)



【第2部】 テーマ別 **グループ ディスカッション**

ファシリテーター: 坂内泰子さん(神奈川県立国際言語文化アカデミア教授)

- ・ あい♡にほんごクラブ……………無理のない活動の秘訣(計画と分析)
- ・ 港南国際交流ラウンジ 日本でくらす会……………学び続ける学習者を支える教室
- ・ なか国際交流ラウンジ 日本語教室……………ゼロ初級者には無理って本当?
- ・ つるま読み書きの部屋……………教室外の人の巻き込み方

— 参加者・発表者の交流会 —

■主 催: 公益財団法人 横浜市国際交流協会(YOKE) 横浜市国際局委託事業

第1部 地域日本語教育に関わる団体による ポスター発表 (市内3・市外1)

参加者の皆さんが自由に移動し、各団体のポスター発表を見て意見を交わしました。発表者と参加者が近い距離で、カジュアルにやりとりができる形式です。それぞれの発表を聞いた後は、付箋にコメントを残しました。

一 「どんな教室？」凡例 ①なにを ②だれが ③どこで ④何人 ⑤いくら ⑥その他

あい♡にほんごクラブ 2008年～

テーマ: 日曜に開く草の根教室 (地域密着型教室を目指して)

教室のあらまし
 <活動内容> 日本語学習と交流を兼ねた日本語教室
 <教室> みやみラウンジにて毎週日曜
 <人数> 支援ボランティア8名・学習者15名前後
 <標準教材> にほんご これだけ!
 <開設> 2008年(現在8年目)

活動のポイント I
 学習者: 週日は働いている日曜日に勉強したい人のために
 支援者: ボランティアしたいが週日できない人のため
 無理しない・出来る範囲で!

活動のポイント II
 年間シラバスプログラム(毎週のトピックが決まっている)
 ☆休んでも次回の内容が分かる
 ☆支援者の交代引継ぎが容易
 ☆音声教材でヒアリング

大切にしていること
 ☆地域・生活密着の話題・知識
 横浜のショッピング・みどころ
 病院・自転車・救急・交通
 ☆マナーの悪い外国人と言われないために
 ☆居場所・・・出てきておしゃべり

これからやりたいこと
 ☆えんぞく・お花見
 ☆ゴミの分別講習会ルール
 ☆AED講習会
 ☆自転車交通

教室参加者の推移

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
学習者	31	37	58	78	100	102	92	90	90	90
支援者	13	13	17	17	17	17	17	17	17	17

■どんな教室？

- ① 日本語学習のお手伝い・地域生活の知識
- ② だれでも
- ③ みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ
- ④ 支援者8人・学習者15～20人
- ⑤ 6か月500円
- ⑥ にほんごこれだけ！準拠のトピックシラバス

■教室のいいところ

- ・平日が忙しい人のために
- ・地域生活の話題がおしゃべりのタネ
- ・頑張らない・できることをできる範囲で
- ・その日に何をやるのか分かっている

■発表内容

学習者、支援者ともに日曜は貴重で忙しい。それでも明るく楽しく活動を続けたい。学習者が今日来て、よかった、楽しかったと思えることは何か、少ない支援者でも運営できる方法はなど、草の根レベルの国際交流をご紹介します。



学習者・ボランティア双方の参加しやすさ、についてのコメントが多く寄せられました。



学習者も3人来場し、参加者とのやりとりに加わりました。

■参加者からのコメント

- ・ 学習者に寄り添ったやさしい活動をされていますね。
- ・ 日曜日開催の信念をしっかりと持ちつつ、会はゆるい感じで無理がなく、いいですね。
- ・ 休んでも困らない方法、年間シラバス作成など予定を前もって立てる、参考にしたい。

テーマ： ^{がくしゅうしゃ} 学習者と ^{しゃかい} 社会をつなぐ ^{きょうしつ} 教室



■どんな教室？

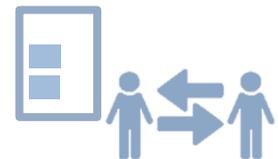
- ① 日本でよりよく暮らすための学習
- ② 初級教室の卒業者やくらす会の活動に興味がある人
- ③ 港南国際交流ラウンジ
- ④ 支援者6人・学習者20人
- ⑤ 1期(約3ヵ月)2000円

■教室のいいところ

- ・ 誰がボランティアで、誰が学習者??
- ・ 何度でも出戻りOKな教室です。
- ・ わざわざ仕事をずらしてでも通いたい!
- ・ 授業後は、
毎回手作りお菓子が出てきます。

■発表内容

学習者主体となる教室活動や、学習者が教室外で行うボランティア活動の紹介



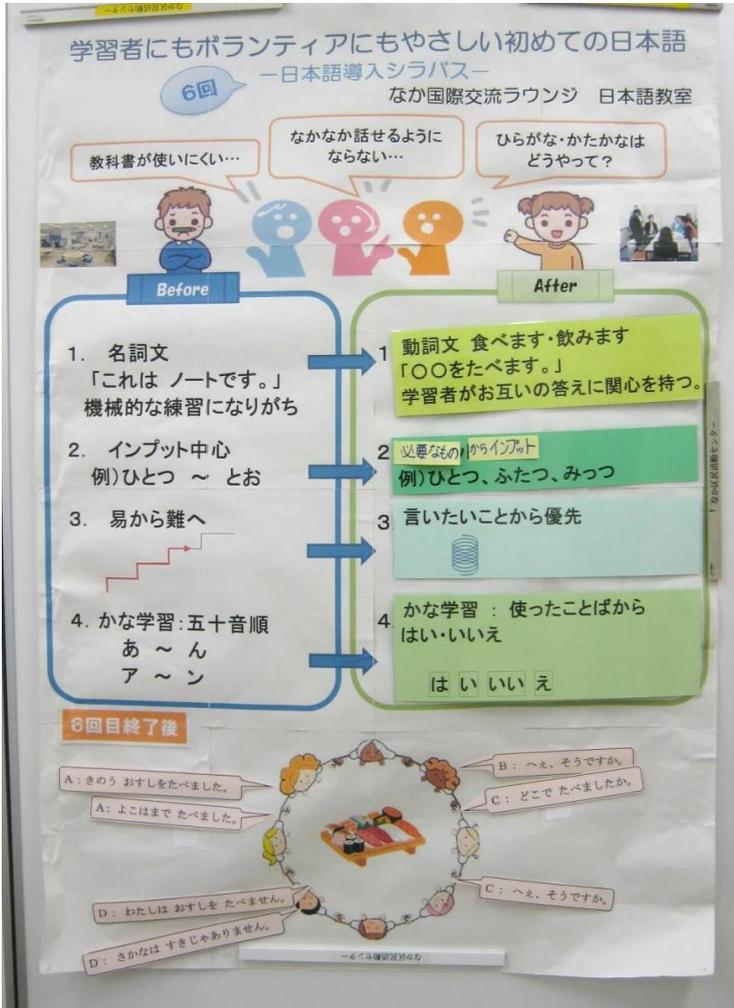
日本人・外国人の双方向で学び合う場、また、学習者の教室外での活躍に向けた基地のような会のあり方に、質問も沢山集まりました。



学習者2人、支援者2人で発表。今回は外国出身者が初めて、準備段階から主体的に関わりました。

■参加者からのコメント

- ・ とても自由で学習者さんが主体で生き生きしていて、いいですね。
- ・ このくらす会に卒業がないのは素晴らしい。学習者が立派なサポーターになれる。
- ・ 「学び合いの場」の創出が素晴らしい。学習者が教える芽を育てているんですね。



■どんな教室？

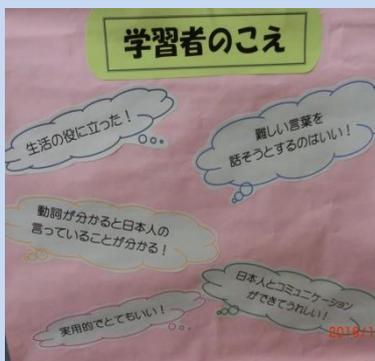
- ① 中区で生活する人への初級日本語学習と生活をサポート
- ② 原則として中区在住在勤の16歳以上の外国人
- ③ なか国際交流ラウンジ
- ④ 支援者11人、学習者30～35人
- ⑤ ¥6,000(30回)
- ⑥ 週2回、火・木午前、1回90分・グループ学習(5名-8名、レベル別5つのグループ)

■教室のいいところ

- ・グループでいろいろな国の人と楽しく日本語を学習!
- ・イベントもあり!(放送ライブラリーでアナウンサー体験など)
- ・生活に役立つ情報を多言語で!

■発表内容

ゼロ初級のシラバス改造 —はじめの6回の画期的なシラバスを紹介—
 初日から親しむ動詞、動詞からひろげる「やりとり」、「やりとり」から学ぶかな学習



初めて日本語を学ぶ人への教え方に対する関心は、非常に高いです。考え方を取り入れたい、是非シラバスを公開して欲しい、というコメントが多く、質疑も活発に行われていました。

■参加者からのコメント

- ・既成の教材を使う前に手作りの教材を効果的に使っていることが素晴らしい。
- ・日本の社会にすぐとびこめるかと思えます。
- ・ゼロスタートの学習者がその時必要としていることをいねいに拾い対応しようとしていて素晴らしいと思いました。

つるま読み書きの部屋

(大和市・招待団体)

2008年～

テーマ: 「話せても、読めない・書けないという悩みを、いっしょに解決していきませんか？」

大和市協働事業
生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ
「つるま読み書きの部屋」
★できるところから問題を解決していきませんか?★

大和市中における外国籍市民の状況
2015年1月1日現在

外国籍市民の数	外国籍市民の割合
1 横浜市 77074	1 愛知県 5,212%
2 川崎市 30927	2 埼玉県 3,339%
3 相模原市 10724	3 福井県 2,479%
4 大和市 10623	4 東京都 2,420%
5 厚木市 5581	5 千葉県 2,205%
6 綾瀬市 3148	6 兵庫県 2,106%
7 藤原市 4767	7 東京都 2,097%
8 平塚市 4108	8 東京都 1,809%
9 厚野市 2790	9 長野県 1,775%
10 綾瀬市 2621	10 埼玉県 1,630%

外国籍市民の悩みと活動の背景

日常生活の中では日本語を
文字情報から得る機会が多いですが...
病院の問診表が書けない
学校からのお知らせをもらったがわからない
アルバイトや仕事の求人情報を知りたい
住宅賃貸・売買の方法は
災害時・緊急時はどうしよう
コミュニティでの活動やイベント情報を知りたい

日本語が「読めない」「書けない」ことで、必要な情報が手に
いれられず困ったという声をよく聞きます
そんな人たちのお手伝いをする教室です

「つるま読み書きの部屋」とは

- 2008年9月より教室活動を開始
- 在日歴が比較的長い外国籍市民が対象
- 生活に役立つテーマ
- 日本語文字情報(読む・書く)の知識向上
- 日本の社会・文化・習慣を理解
- 手作りの教材を使用
- 2010年より大和市との協働事業として展開

講座実施までの流れ

年間の講座テーマと教室の様子

期	開催期間	テーマ
1期	2014年 6月～7月	1 不動産情報 2 告別式のお知らせ 3 防災に関するアンケート 4 通帳カテゴリーで注文する 5 浴衣を着てみよう!
2期	2014年 11月～12月	6 給与明細 7 税金について 8 スーパーでの日本語 9 休を使った慣用句 10 年賀状
3期	2015年 2月～3月	11 コレはどうなるの? 12 病院のときに使うことば 13 おにぎりとみそ汁を作る 14 履歴書を書く 15 転職のお知らせ

今後の活動に向けて

- 学習者からの評価を得る仕組み作り
- 講座に対する満足度、要望の把握
- 教室や学習者の連絡方法を改善
- メール、facebook、LINEなどSNS活用
- 市各部署との連携と講座テーマへの反映
- 市役所職員による講師
- 大和市内外国人雇用企業への展開

2016/1/3

■どんな教室？

- ① 生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ
- ② ひらがな・カタカナが読める人
- ③ 鶴間・保健福祉センター(夜)大和・生涯学習センター(昼)
- ④ 支援者8人、学習者5～8人
- ⑤ 1講座(全5回)1000円
- ⑥ 教材は、すべて手作り

■教室のいいところ

- ・ 日常生活の中で、読んだり書いたりする必要のあるものを取り上げます。
- ・ 市役所の職員や専門の先生に、教えてもらうことがあります。
- ・ 日本人も一緒に勉強します。

■発表内容

日本人も、知っているようで知らなかったことがたくさんあります。それを、専門家の話を聞きながら、一緒に勉強します。市役所の方たちも、外国人相手に“やさしい日本語”で話す、ということをして、学んでくれています。



日常生活に密着したテーマ・読み書き重視、外部の方を積極的に巻き込み日本人も共に学ぶ、という特徴的な活動発表に、参加者の皆さんも多くのアイデアや気づきを得たようです。下記、団体ホームページでは、各テーマの教案・教材が公開されています。

生活に役立つ日本語の読み書きを学ぶ「つるま読み書きの部屋」ホームページ

<http://www.enjokyokai.org/turumayomikakinoheya/index.html>

■参加者からのコメント

- ・対象者をしばってテーマに沿って活動されているのが良いですね。
- ・生活に根ざしたテーマの独自教材を作成していることがすばらしい。
- ・体系的にしっかり構築され、NET も使い広く働きかけていて、すばらしい。

第2部 テーマ別 グループ・ディスカッション

各団体の発表内容に沿ったディスカッションテーマを設定し、4グループに分かれてディスカッションを行いました。団体への質疑応答の他、参加者自身の活動の様子や日頃感じていることなどをお話いただきました。



あい♡にほんごクラブ

むり かつどう ひけつ けいかく ぶんせき
無理のない活動の秘訣(計画と分析)

■参加者より…ゆるやかだが、とっても計画的。コーディネーター1人、5人が日本語支援、2人が待機という割り振り。休んでも穴埋めできるシラバスがあり、学習者もここに3人が参加、これこそ成果。

■団体より…これだけは譲れない、それは日曜日続けること。ここがポイントだったと今日気づいた。シラバスが果たしている役割も、皆さんから言われて気づかされた。

港南国際交流ラウンジにほんでくらす会

まな つづ がくしゅうしゃ ささ きょうしつ
学び続ける学習者を支える教室

■参加者より…人間関係を軸に、学習者が支援者へと育っていく様子がわかった。人間関係が出来ている中で、まず友だちに教えてみる。それから外に出て知らない人に教えるといった具合に。

■団体より…出入り自由な教室、仲間が待っているから戻ってくる、社会に出て分からないことをまた持ちよる、そんな教室。今回、自分たちの活動を客観的に見ることができ、新鮮だった。

なか国際交流ラウンジ日本語教室

ぜろ しょきゅうしゃ むりほんとう
ゼロ初級者には無理って本当？

■参加者より…生活している人のための教室。その人がどこで何を言いたいのかに寄り添うにはテキスト通りでは無理、人となりをすることも大事だと、改めて認識できた。

■団体より…同じ悩みを持つ方に広く私たちの取り組みを知っていただけで良かった。これを機にHPでのシラバス公開を検討することもでき、有意義だった。

つま読み書きの部屋

きょうしつがい ひと ま こ かた
教室外の人の巻き込み方

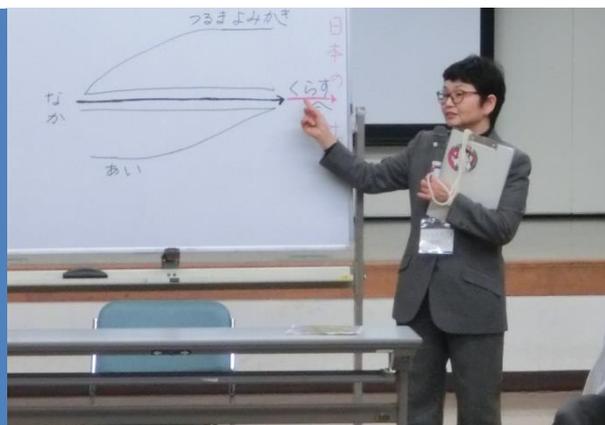
■参加者より…テーマ選びから教材作りまでお互いの知恵を出し合い、夜と朝の教室で同じテーマを扱うことで、内容を日々改善し支援者のレベルアップにもなっている。

■団体より…多くのコメントをいただき、これからの教室運営を進めていく上でとても励みになった。また横浜市内の日本語教室の様子がよくわかり、たいへん参考になった。

ディスカッション全体共有・まとめ

坂内泰子さん

(神奈川県立国際言語文化アカデミア教授)



今回発表の4団体は、選んでこの4つになった訳ではないが、こんな風に説明できる（→図1）
来たばかりの外国人を主な対象としている「なかラウンジ日本語教室」が入口支援だとすれば、地域の日本語教室を卒業し、日本で自分らしく歩み始めた人たちが休みながらも通い続ける港南ラウンジ「日本でくらす会」は出口支援だと言える。そして、その間に、地域に根差した「あい♡にほんごクラブ」があり、「つま読み書きの部屋」の活動が位置づけられる。

外国人が日本に来て、地域社会で豊かに暮らしていくためには、さまざまなステージで、さまざまな支援が必要となる。都市部の特徴である多様性を活かして、それぞれが得意な分野を担えば、全体として、日本語支援の質的な向上が期待できるのではないか。それにはまず、近隣の教室同士が互いに情報交換をすることが大切だと思う。

また「つま読み書きの部屋」のように行政との連携ができると、団体単独での活動より大きな成果が生み出せる上、それをまた多くの人に分ち合えるという好循環につながっていく。

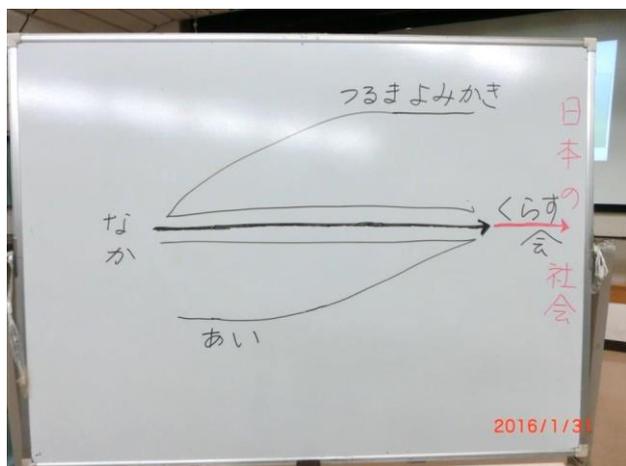


図 1



■参加者の交流会

ディスカッションでは話しきれなかった内容、もっと個別に聞きたいことなど、自由に意見交換ができる場となりました。また、連絡先を交換するなど新たなつながりも生まれました。

■参加者の声(アンケートより)

- ・それぞれの教室が学習者、地域に応じて様々な活動を創意工夫している様子を伺えて、得るものが大きいです。
- ・仲間づくりや、双方向の学び合いの場などと言う視点を意識した日本語教室、クラスを作りたいと考えます。
- ・生活に役立つ日本語と言うことに常に向き合っているつもりですが、なかなか教えることに一生懸命になりがちです。初心に帰る思いを新たにしました。
- ・教え方や相互の交流、様々な活動をしていること、カリキュラムやシラバス、手作りの教材など、学ぶこと役立つものが数多くありました。
- ・ボランティアも学習者も無理せず楽しく学び合い、教え合える仲間として関係をつくっていきようになりたいと思いました。
- ・ボランティアの熱心な指導には感心したが、行政上の支援を拡充してほしい。
- ・活動の会場を保障してもらいたい、せめて！25年間苦勞してきた。
- ・今回の一般参加者の中には学習者、または外国人の方はいたようですが、その方たちにも意見を伺う機会があればいいなと思いました。



「履歴書の書き方」「言葉以外の課題も」

日本語教室の工夫紹介

南区 ボランティア団体発表会

外国籍の住民が多い横浜市や周辺自治体を拠点に、日本語教室を開くボランティア団体による取り組み事例の発表会が三十一日、同市南区のフォーラム南太田であった。四団体が発表し、ボランティアに興味のある六十人が聴講して活動の参考にしていった。

横浜市国際交流協会によると、同市内には日本語学習を支援する団体が百以上ある。四年前から各団体の交流を促し、組織運営に役立ててもらおうと、事例発表会を開いている。

今回は、「あいこにほんごクラブ」(横浜市南区)、「なか国際交流ラウンジ日

本語教室」(同市中区)、「港南国際交流ラウンジ日本でくらす会」(同市港南区)、「つるま読み書きの部屋」(大和市)が発表。「定住者は日本語を話せても、読み書きが苦手。履歴書の書き方や給与明細の読み方を教えている」「言葉だけでなく、防災の知識や生活上の課題も教える」などとそれぞれの工夫を解説した。

参加者は「学習者はどれくらい教室に定着するか」「実生活に基づいた講座で分かりやすいそう」などと感想を述べた。発表後、発表者と参加者が「無理のない活動の継続」などをテーマに意見交換した。

(志村彰太)

日本語教室の取り組みを紹介する発表者＝南区で

■メディア掲載 東京新聞 2016年2月1日付朝刊 22面掲載